

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070001195
法人名	有限会社 だんらん
事業所名	グループホーム だんらん
所在地	福岡県築上郡吉富町大字直江77-4
自己評価作成日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年2月6日	評価結果確定日	平成24年7月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームだんらんは、「地域とのつながりを大切にする事」を理念にかかげ平成16年に設立された。場所は、JR三毛門駅又は、吉富駅より車で5分程で、旧国道10号線沿いに位置している。近隣には、公共施設、スーパー、小、中学校等があり、学童達とすれ違う際には挨拶を交わっている。また、施設への違和感もなく登下校時は自由にトイレを利用し、その際利用者の方の話し相手となっている。施設としては、積極的に地域へ出向く事で最近では祭り等にお誘いを受けるようになった。地域の方々には、施設の取り組みが理解されつつあるように感じる。職員は、ご利用者、ご家族の側に立った考え方をし、安心して、安全な生活を送れるよう自己満足に終わることなく、常に振り返りながら、最良の支援を行えるよう模索している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

23年度は新しく1ユニット増設され、2ユニットのホームとして新たなスタートを切っている。小規模多機能型居宅介護事業所や有料老人ホームが併設され、様々な面で連携を図りつつも、各事業所の特徴を活かし、独自性を発揮しながら地域に根付いたサービス提供が行われている。自治会長や民生委員の方々との連携を図りながら、地域行事や活動への参加、また、事業所の行事や災害対策においても参加、協力を得ており、積極的な連携が図られている。管理者、職員は、様々な視点から研鑽を積みつつ、実際の支援の場面ではあくまでもさりげなくふれあい、入居者本位の日常の暮らしを重視した支援の方向性がうかがえる。今後も職員が一丸となり、地域密着型サービスとしての発展が期待される事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者、ご家族が常に見ることができるように掲示している。理念を常に具体化する方法を模索しながら人生の先輩が安心して暮らせる様つとめている。	「私たちの介護理念」は目に付きやすい場所に掲示され、関係者間での共有を図っている。会議やカンファレンスの中でも、理念に基づいた支援について振り返りや確認を行い、実践に結び付けている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住み慣れた地域で生活をするためには、地域へ根ざし地域の一員として、祭事への参加や施設が交流の場となるよう目指している。	自治会に加入し、回覧板にて地域情報を確認している。入居者とともに地域行事へ参加し、清掃活動等にも職員が参加している。近所の小学生が登下校時に立ち寄り、散歩の途中には地域の方と気軽に挨拶を交わし、日常の中での自然体の交流がある。ホームの秋祭りや避難訓練には地域からの参加や協力を得ており、毎年、中学生の職場体験も受け入れている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の役目として、催し物へのお誘いをかけ気楽に来所できるよう心がけたり、地域の方々に理解して頂く為、訪問を行う等積極的に地域へ出向いている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域関係者を招き定期的開催している。これを行うことで施設内での活動状況や、福祉制度の動向等必要な情報交換を行い、サービスの向上としている。	家族代表(各ユニット・小規模)、自治会長、民生委員、町役場担当者、地域包括支援センター職員の参加を得て運営推進会議は開催され、職員の参加も多い。議事録には、様々な立場からの発言がわかりやすく記載されており、意見や提案をサービス向上に結び付けられるよう取り組んでいる。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的な会議へ出席して頂いたり、市町村担当者と連絡をとったり訪問を行い情報の交換を行っている。	運営推進会議には、町役場職員、及び地域包括支援センター職員の参加を得ている。また、ケースワーカーとの連携も図りながら、意見交換や情報共有に努めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束は原則行っていない。新人オリエンテーション時には、書面をもって説明し、徹底している。現在一名の方のみ入床時には転倒防止の為に、家族の同意を得てベッ卜柵を行っている。	日常生活の中での様々なリスクや、身体拘束を行うことによる弊害について、家族とも共有認識を図りながらケアに取り組んでいる。日中の施錠については、ユニットにより対応が異なる。	増設された新ユニットは階上に有料老人ホームもあり、現在、常時施錠されている。安全面への十分な配慮と、環境整備や支援の充実を図りながら、検討を続けていくことが期待されます。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人オリエンテーション時、書面をもって指導を行っている。虐待について職員全員が理解し、防止に努めている。		

福岡県 グループホーム だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を通しスタッフには、集合伝達の形で学習会を開き、周知徹底するよう努めている。	現在、成年後見制度や日常生活自立支援事業を活用している方はいないが、研修参加や内部での伝達を図り、制度に関する理解を深める取り組みを行っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時にはご家族、ご本人を前に契約書の説明を行い納得されたうえで契約書にサインをもらっている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へ家族の参加、面会、イベントまた、カンファレンス参加へのご案内を行っている。	運営推進会議には、各ユニットからそれぞれの家族の参加を得ており、忌憚のない意見交換が行われていることが、議事録からも確認できる。家族が意見を言い難いことを理解し、来訪時等にもコミュニケーションを図りながら、意見の表出に努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各部署で会議を行い、それを管理者会議へ提案し必要時結果を各部署へおろしている。	各ユニットごとに月例会議を行い、職員個々の意見を吸い上げ、月2回の管理者会議等にて、全体での検討が行われている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会への参加の促しや、各部署の話し合いを持って意見を表出する場面を設けている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男女年齢問わず採用し、職員間で意見の交換場がある。	現在、20代から70歳まで、幅広い年齢層の職員が勤務している。ゆとりある人員配置を行い、看護職員の確保、外部研修参加や資格取得に向けたサポート等、働きやすさやスキルアップに向けた積極的な支援が行われている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	個人情報保護、虐待防止書面及び学習会を行っている。個人情報保護方針、個人情報の利用目的の提示あり。	権利擁護、高齢者虐待防止、認知症ケア等の研修を通じて、人権教育、啓発に取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修に参加している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	見学者の受け入れまた、他施設への見学を行い、イベントについては、関係施設へご案内をしている。しかし、全体的な交流は行われていない為に今後は必要と思われる。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の全てを受け入れる事を第一とした対応をとる。本人の苦しみをわがらうとする態度を示す事から伝える。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どのような相談内容でも、聞く姿勢がある。相手の都合に合わせた受付を行っている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能なサービスを伝え、必要時他施設の紹介を行っている。また、家族への支援も心がけている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事は自分で行ってもらうなど努力している。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回ご本人の様子を「だんらん便り」で、ご本人の状況を郵送し、またご本人の思いをご家族へ代弁している。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の祭り事への参加を行い、知り合いに会われ、楽しく会話されることも多い。	お墓参りや地域行事への参加、趣味活動や新聞の継続購読、馴染みのスーパーや美容院の利用等、これまでの暮らし方やライフスタイル、馴染みの関係性の継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや一日の生活の流れの中で、声かけや誘う事で皆と共有できるよう努めている。利用者間のトラブル解決において不満が残らない様、職員間で情報を共有し、注意して対応している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相手から相談があった時には対応している。また、いつでも対応時の準備は出来ている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとり一人の趣味などを把握し、その人らしい生活ができるよう努力している。	個人記録は特に夜間の記載が充実しており、入居者一人ひとりの日常の様子を職員間で共有している。ベテラン職員も多く、日々のかかわりの中で、思いや意向の把握に努め、その人らしさの理解に努めている。	アセスメント様式は身体状況が中心となり、生活歴やライフスタイル等の記述は少ない。職員個々が持つ情報や気づきの共有、認知症へのアプローチに新たな視点を確保していくためにも、アセスメント様式の工夫や充実を期待します。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人、その他関係者より情報収集している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のペースに合わせて、その時々々の心身の状態等を見ながら支援するよう努めている。情報の共有を常に図っている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医参加により、ケアカンファレンスを行っている。ご家族様は声かけするも、参加はされていない。要望等を伺い、スタッフ間で意見交換し、ケアプランを作成している。	ケアカンファレンスには主治医も参加し、職員とともに協議を行っている。サービス内容が具体的に示されており、個別性ある介護計画が作成されている。	心身の機能維持や活用に向けた視点を加味し、本人、家族、職員間で共有を図りながら、自立支援や地域生活の継続に結び付けていくことも検討して下さい。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝、夕の申し送りで個別の変化を確実に伝え、情報を共有しながら個別記録に記入し、計画の見直しに活かしている。		

福岡県 グループホーム だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じ支援やサービス内容を考え直し、施行している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議で活動の報告や地域の行事に参加支援を行っている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な主治医の往診やカンファレンスでスタッフとの話し合いがあり、適切な指示を受けている。	入居時にかかりつけ医について確認している。これまでのかかりつけ医への受診については、基本的に家族対応としている。月2回の往診や、随時の歯科往診体制を整備し、適切な医療を受けられるよう支援を行っている。ケアカンファレンスには、主治医の参加も得ており、情報や支援方針を共有している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックを行いスタッフが確認した情報を看護師に報告し、必要時指示を受けている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療施設への入院時、サマリーでその情報を提供している。主治医の病院に入退院の場合は、良い関係が出来ていると思う。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアについて、方針等家族と話し合いを契約時に行っている。	重度化や終末期のあり方については、入居時に意向確認や説明を行い、同意を得ている。これまでに終末期の支援を行った経緯もあり、状態の変化に伴い、家族や医師との話し合いを重ねながら、方針の共有に努めている。ターミナルケアについての外部研修に参加している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていない。事故マニュアルはある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回火災訓練は行っている。地震、水害も今後行っていきたい。地域の方の参加もあり、昼夜問わず、想定した訓練も行っている。	消防署の協力を得て、年2回、夜間想定にて避難訓練を実施している。近隣に居住する自治会長や民生委員の参加、協力を得ており、敷地内の同法人施設が各棟で訓練を行い、その後に合同で協力体制を確認している。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護理念を念頭におき常に振り返ることにしている。言葉や態度には注意を心がけている。	接遇に関する外部研修への参加や内部伝達、また、認知症ケアや個人情報保護等の内部研修を実施し、職員の意識を高めている。入浴時や排泄ケア、入室の際の声かけ等、羞恥心やプライバシーへの配慮を常に念頭に置くように心がけている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の症状により困難な方もいらっしゃるが、自己決定の場を作り、声かけを行っている。日常生活のふとした会話や発言、行動の中から感じとっていくようにする。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の計画は決まっている。体操やレクリエーションは強制ではないもののほとんどの方が参加されている。その他の時間はその方のペースで過ごして頂いている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	何気ない声かけやスタッフもおしゃれには配慮している。自己決定出来ない方には、スタッフと共におしゃれをして頂く。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りのおやつ作りを通して、食べることの楽しみを感じて頂く。	法人厨房での調理となり、栄養士も配置されている。嗜好調査を行い、個別の好みや食事量についても把握に努めている。外食レクリエーションやおやつ作り等、普段とは違う雰囲気を楽しむ機会もある。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士管理の下、食事提供している。体調により、軟飯刻み食等対応している。水分補給についてはスタッフが十分な注意をしている。		

福岡県 グループホーム だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声かけをし、確認している。就寝前には義歯の洗浄を行っている。また、歯ブラシ、コップの消毒も行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立維持を保つために、日中、夜間の区別をし、原則使い慣れた布ショーツの使用をしている。しかし、尿とりパット等リハビリ用品に頼る方もいるがその方の機能に合った支援を行っている。	排泄パターンの把握とともに、睡眠パターンや疾病状況を鑑み、日中・夜間と個別のニーズに応じた支援が行われている。失禁時のさりげない対応等、羞恥心やプライドへの配慮を心がけている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養面の事は栄養士また、身体面の相談は主治医の定期的な受診を行う事で解決できている。最終排便を把握し、十分な補水や適度な運動を心がけ、予防に取り組んでいる。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な日時は決めているが、本人の体調や意思を尊重し柔軟に変更している。	基本的には、週3回、午後の時間帯での入浴となるが、毎日入浴準備行い、その日の希望や状況に柔軟な対応を行っている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の予定をもって過ごされているが、ご本人の意思、体調を把握し訴え等考慮しながら過ごせるよう努めている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者が服用されている内容の処方箋を、スタッフ全員が閲覧できるような管理を行っている。必要時、意見交換や書面をもって情報をながしている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人差はあるが、残存機能の維持また、楽しみの一つとして、ご自身が負担なく出来る事を行えるよう支援している。今後、具体的に個々の楽しみを見つけ計画したい。		

福岡県 グループホーム だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>家族への支援の要請はもとより、地域資源の活用の支援また、ご希望に沿うように必要な時にはスタッフが可能な限り支援を行っている。</p>	<p>近隣のお地藏様までの散歩コースは定番となっており、地域の方々との会話を楽しむ機会にもなっている。季節や天候に応じて、ウッドデッキでの日向ぼっこや、野菜の生育状況を観察しながら、外気浴を行っている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭トラブルを防ぐため、利用者様に応じた金銭管理を行っている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご本人から家族、友人等への電話の希望がある時には、支援を行っている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>以前から使用しているなじみの品物を持ち込んだり、四季の花を飾ったり、スタッフと共同で作成した作品の展示を行っている。室温に関しては、チェック表を用いて調節している。</p>	<p>これまでの1ユニットから増設され、2ユニットそれぞれの造りや趣は異なるが、ゆとりある広さが確保され、ソファや和室スペースの設置により、くつろぎの場所や一人になれる場所も確保されている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ご利用者様の行動を強制せず、本人の意思で自由にリビングや居室で過ごせるよう雰囲気を作っている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>古くなった物でも、本人の思いを第一とし、使い慣れた自分の物を持ち込み、飾っている。</p>	<p>手すりやクローゼットが設置された居室内は、暮らしに必要な品々が持ち込まれ、生活感がある。家族の写真や思い出の写真が飾られたりと、居心地良く、安心して過ごせるよう配慮されている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>全室バリアフリーで手すりやスロープも設置し、安全に過ごせるよう環境づくりを行っている。居室のネームやトイレの表示も分かりやすく大きくしている。</p>		